

台湾製造業の自動化ニーズを取り込む安川電機

株式会社安川電機は、メカトロニクス製品や産業用ロボットなどを手掛ける日本の大手メーカーである。2001年の台湾拠点設立当初から注力してきたサーボモータやインバータを含むメカトロニクス事業に加え、近年では台湾製造業の自動化需要を取り込むため、ロボット事業を積極的に強化している。今回は、株式会社安川電機の現地法人である台湾安川電機股份有限公司の福永総経理を訪ね、現在の事業内容と台湾拠点位置付け、そして今後の事業展開についてお話を伺った。



台湾安川電機股份有限公司 福永達也総経理

—貴社の事業概要と台湾の位置付けについて

安川電機グループは、安川電機を中核として、子会社81社および関連会社24社により構成されており、「モーションコントロール」、「ロボット」、「システムエンジニアリング」、「情報」、「その他」の各部門の様々な分野で製造、販売、据付、保守、エンジニアリング等を行っています。安川電機の台湾事業の歴史は長く、1969年に台湾の大手電機メーカーである東元電機と合併で低圧電磁開閉器の製造販売を行う台安電機を設立したのが始まりです。その後、当事業については東元電機に売却し、2001年に台湾安川電機股份有限公司（以下、当社）を独资で設立しました。主にメカトロニクス製品、ロボット製品の販売、保守を行っています。

メカトロニクス事業は、日本の製品ラインアップを総べて揃えており、ACサーボアンプ・ACサーボモータ、汎用インバータ、太陽光パワーコンディショナ、EV用モータドライブシステム、マトリクスコンバータ、電源回生コンバータ、マシンコントローラ、ビジョンシステム、工作機械用AC主軸モータ・制御装置、リニアモータ・制御装置などが主な製品です。

また、ロボット事業について、以前は日本本社から直接台湾顧客に対して販売していましたが、顧客の需要増加に伴い、2012年から台湾拠点に技術者を置いて対応する体制に変更しました。主な製品は、アーク溶接ロボット、スポット溶接ロボット、塗装ロボット、ハンドリングロボット、ピッキング・パッキング用ロボット、パレタイジング用ロボット、プレス間ハンドリングロボット、シーリング・切断ロボット、バリ取り・研磨ロボット、半導体・液晶製造装置用クリーン・真空搬送ロボット、ロボット

応用FAシステム、サービスロボットです。その中でも、電子・電気機器や機械産業の大手企業が多数存在する台湾では、液晶パネルメーカー向けのパネルハンドリングロボットや、工作機械メーカー向けのマシン間ハンドリングロボット（加工工程間をつなぐロボット）のニーズが多くなっています。

安川電機のもう一つの主要事業である、システム事業については、別途安華機電工程股份有限公司を東元電機と合併で設立しています。主に鉄鋼プラント用電気システム、上下水道用電気システム、各種産業用電気システム、小形風力・太陽光発電用システム、エネルギー関連システム、高圧インバータ、高圧マトリクスコンバータ、大形風力発電用コンバータ、産業用モータ・発電機、大形・小形風力用発電機、電力用配電機器を取り扱っています。

—台湾拠点の機能について

前述の通り、台湾は主に販売と保全（製品のメンテナンスを含む）を行っており、台湾北部と南部に計2つの拠点があります。

台北拠点は、昨年新しいオフィスに移転しました。目的としては、リペアセンターとオフィスの統合です。以前は、台北市内にオフィスを構え、新北市中和に別途製品のリペアセンターを構えていました。拠点運営の効率化と拠点拡大のため、オフィスとリペアセンターを統合する形で新北市新店に移転しました。事業拡大に伴い人員の採用も積極的に行っており、従業員は60名まで増員しました。

台南には、ロボット事業向けの技術センターを構えています。液晶パネルの搬送ロボットが台湾の大手パネルメーカーの

Innolux/AUOに多数導入されており、近接して技術センターを構えることで、顧客のニーズに迅速に対応できる体制を取っています。販売については、代理店販売を主体としています。

台湾市場の現況について

台湾OEMメーカーの多くは、中国での人件費高騰を背景に台湾内外の工場の自動化を積極的に推進しており、ロボットの需要は徐々に拡大してきています。また、台湾には多くの工作機械メーカーが存在し、プロセスを統合するシステムインテグレーターもそろっており、それらの企業向けにマシン間ハンドリングロボットの需要も多くなっています。同時に前述の通り液晶パネルのハンドリング用ロボットも需要が大きく、台湾内で当社の製品が約5000台稼働しています。その他にも磨き、バリ取り、研磨等の工程でロボットが活用されています。

当社は主に日本から製品を輸入し、台湾内の顧客に販売していますが、直近では、台湾内顧客が中国向けに出荷する最終製品について、中台間の两岸経済協力枠組協議（ECFA）の内製率制限を受けるため、サーボモータやインバータについて、中国内工場で生産された製品を輸入し、台湾内顧客に納入する事が増加しつつあります。

台湾を活用するメリットについて

台湾を活用するメリットは、主に2点あると考えています。一点目は、事業拡大の可能性を秘めた台湾企業の存在です。当社は台湾市場において市場顧客のほとんどを台湾企業が占めています。日本市場と違い、依然として自動化が進んでいない分野もたくさんありますが、電子部品の分野については台湾の方が進んでいます。また、その他の分野でも、将来第二の鴻海や可成科技になり得るような優良な企業がたくさん存在します。これらの企業に対して、いち早くアプローチをすることは中長期的な事業拡大に有益だと考えています。当社では、現在すでに自動化が進んでいる分野だけでなく、未導入の分野についても、幅広く事業の種を蒔く取り組みを行っています。

2点目は、それら台湾企業の決断力です。日本では、顧客に製品が採用されるまでの判断プロセスが複雑であり、交渉の期間が長くなる傾向があります。一方で台湾企業では、董事長に権限が集中しているケースが多く、董事長の一声で採用が決定されることも珍しくありません。また、その決定が台湾内の採用

に留まらず、国外の工場でも採用されることもあり、台湾からの波及効果も見込めます。

今後の事業展望について

メカトロニクス、ロボットのほかに、新しい分野への事業展開を進めています。現在台湾政府は、電子・機械産業に続く目玉産業の育成を目指しており、医療産業はその中の一つです。当社は、脊髄を損傷された方向けリハビリ装置などの医療機器についてもノウハウを持ち合わせており、今後この分野へのロボット導入の可能性を探っています。

安川電機は2013年9月に歩行アシストスーツの開発を手がけるイスラエル企業「Argo Medical Technologies社（以下、Argo社）」と資本提携と戦略的協業に関する契約を締結しました。この提携を通して、Argo社が開発した歩行アシスト装置「ReWalk（リウォーク）」を、安川電機が日本やアジアで販売を行うことになりました。この製品は、外骨格型のアシストスーツで、装着者の重心位置を検出して歩行動作を行い、自然な歩行を可能にします。台湾は有望な市場であると考えており、地域の販売代理店やユーザと連携しながら市場導入に向けて取り組んでいます。

安川電機は、2015年に創業100年の節目の年を迎えます。今後も、当社の培ってきた技術力で台湾産業の高度化に貢献していきたいと考えています。

ありがとうございました。

台湾安川電機（股）有限公司の基本データ

会社名	台湾安川電機股份有限公司
董事長	熊谷 彰
設立	2001年7月
資本金	1億元
従業員	約60名（内、日本人10名）
事業内容	メカトロニクス製品、 ロボット製品の販売・保守

注）2014年12月時点のデータによる
出所）公開資料及びヒアリングよりNRI整理